

# ホリデースクールを止めないで！

## 障がい児の人権と権利を守ることが前提

湖南市は、来年度予算編成で、これまで取り組まれていた障がい児の支援事業とさされてきた「障がい児ホリデースクール事業」を取りやめようとしています。携わってこられた市民の方と共産党議員団は、18日、この問題で、蒲谷健康福祉部長、今井次長、園田課長と交渉を行いました。

この事業は、「学校就学中の障がい児に、放課後や夏休み等の長期休暇中において、生活能力向上のために必要な療育活動を行なう」もので、湖南市社会福祉協議会に委託されている事業です。この事業に関わっている市民のみなさんから「事業を取りやめないでほしい」と利用していた保護者やボランティア活動に参加していた人たちから共産党に持ち

込まれたものです。交渉には、長年にわたりボランティアとして参加された市民も参加、「私は十数年間サマーホリデースクールに参加してきた、利用されているお母さんからは、無くなれば大変。無くさないでください」「これまで参加してきたが、何としても続けてほしい」と訴えられました。

障がい児の権利をどのように守るかの議論が大切」と問題提起しました。これに対し今井次長は、「まだ決定したものではありません。日中一次支援事業の拡大で対応するなど、湖南市社協とも協議していきたい」と回答しました。



## 学校に行きにくい子どもと親への支援について

1月18日に岩根会館で「おひさまっこ」主催で「学校へ行きにくい子と親の居場所—お話し会—」が開催され、松井・川波両議員も参加しました。

当事者や支援者らの生の声を聴きました。「子どもが学校へ行きにくくなった際に取り残されたように感じる」「どこに支援を求めたらよいのかわからない」「どんな支援があるのかわからない」「子どもにも居場所を作ってあげたい」等の声がありました。

パートナーや周囲の大人、子どもたちの理解と協力が重要であるとも感じました。

学校に通うのが当たり前とされる社会の中で、その枠組みになじめない人がいます。

人それぞれ得手不得手がある様に、周囲の環境に敏感であったり、学校という環境に溶け込むのを苦手とする子どもに、既存の社会の枠組みに無理やり合わせようとするのではなく、一人ひとりの個性が尊重される社会を目指したいと思います。情報共有できる仕組み作り、フリースクールのような場所やふらっと誰もが立ち寄れる様な居場所作りも必要です。一人の子どもに対して100人の関りが出来るような地域を作っていききたいです。

## 新しい公共交通事業の実証運行が始まります

4月からコミュニティバス「めぐらくん」の甲西南線（妙感寺ルート・美松台ルート）、医療センター線の運行が休止され、タクシー車両などを使用した新たな公共交通事業の実証運行が開始されます。

湖南市は人口減少問題を抱える中、赤字となっているコミュニティバスの在り方の見直しは避けられないと考えますが、利用者を置き去りにすることはあってはなりません。市も初めての取り組みであり、どのような方法が最善かわからず、実証運行を通じて改善をしていく考えです。

1月の広報に記載の通り、2月3日、9日、16日、18日、19日の午前、夜と説明会が開催されますので、是非ご参加いただき、市民の皆様の声をお届け頂き、より良いものにしてまいりましょう。



実証運行の説明会の会場と日

2022年1月21日(金)  
No. 473号  
日本共産党湖南市委員会

**湖南民報**

福祉教育  
常任委員会  
松井けい子  
0748-77-2049

産業経済  
常任委員会  
川波 忠臣

湖南民報は「赤旗」に折りこんでいます。

090-9691-1027

050-3554-3822

